

宮崎のものは
やっぱ、うまい

地鶏



黒田：初めての地鶏の感想は、「何だ？鉄板に乗ってるこの黒い物体は！？」でも食べてみたらかみ応えがあって、味があって、見た目とのギャップがあり過ぎるおいしさでした。

釜揚げ
うどん



黒田：こんな食べ方は宮崎だけではないでしょうか。

小渕：甘いツユもおいしいし、大好きで取り寄せて食べています。

レタス巻き、
チキン南蛮



小渕：宮崎にはおいしいものとおいしいものを混ぜるという、混ぜ文化があると思います。18歳で大阪に出て、食事のときにご飯の上にいろいろ乗せていたら気味悪がられましたが、おいしいものを組み合わせてもっとおいしくするなんて、幸せな人の思考です。



景色は昔から変わらず宮崎にしか
い自然の景色なのでしょうね。

► こどものくに



海、砂浜、川など自然の地形を生かして造られた「こどものくに」は、今年で開園79周年。パークゴルフやバラ園、椿園など家族で楽しみながら散策できます。少年時代に小渕さんが遊んだ園内とは様変わりしましたが、青島地区の懐いの場として今多くの人が集います。

► 橋公園



► 若草通り商店街



大淀川の北側、ホテル街の正面にロンブル(赤と白、青と白のストライプのテント)が並ぶ公園があります。小渕さんが高校時代にストリートライブを行ったり、学校帰りに友達とおしゃべりやショッピングを楽しんだ店がいくつもありました。

小渕：友達と学校帰りに待ち合わせをした思い出の場所が『朝顔』の歌詞に出てきます。大淀川の堤防は高校生のときに通学路で使っていたので毎日通っていました。デビュー後、堤防でインタビューを受けたこともあり懐かしい場所です。

中心市街地のアーケード街で個性的な店舗が多く、オシャレに敏感な若者が集まる場所です。小渕さんが高校時代にストリートライブを行ったり、学校帰りに友達とおしゃべりやショッピングを楽しんだ店がいくつもありました。

小渕：ここにいるだけで幸せを感じていました。行けば誰かに会えたし、蜂楽饅頭で友達とハチミツレモンかき氷を食べてわいわいしたり。甘味処の華屋さん、洋服屋の鈴丹、三信衣料、クリッパーズ、今はなくなってしまったけれど懐かしいです。ちなみに蜂楽饅頭は黒あん派ね。

黒田：回転焼きね。俺、あんこ苦手なんです。

ここにしかない景色の中
温かな人たちが暮らす町

故郷を離れて思うのは、町は
人がつくっているということ。道路
や街並みが少しずつ変化していく
中、住んでいる人はそのままで「変わ
らぬ良さ」を貫いている感じがこ
こにあると思います。僕は帰つて
くるたびに、この町が「変わらない良
さ」を保ってくれていること、変わ
らず温かく迎えてくれる故郷に生まれ
たことに幸せを感じています。

黒田：この町は、自然が素晴らしい
ザギザ、鬼の洗濯板の景色に驚いた
じ引きに行つたとき、あの海のギ
崎ならでは」です。青島神社におみく
じ、とても感激しました。きっとあの

景色は昔から変わらず宮崎にしか
い自然の景色なのでしょうね。

コブクロの歩き方

小渕健太郎さんが生まれ育ったこの町には、コブクロの名曲が生まれた原風景があります。私たちが普段、何気なく過ごしている景色の中に「あの歌」が生まれた思いが見つかるかもしれません。



2001年3月17日、メジャーデビュー（同年3月22日）直前のフローランテ宮崎でのライブの様子

► 後田川緑道公園



中心市街地を流れる後田川を地下水路化し、東は日の出町の県立宮崎海洋高校付近から、西は永楽町の宮崎市立宮崎中学校付近まで延びる緑道公園として生まれ変わりました。小渕さんは登下校や母との散歩などで子どもの頃から大変親しんでおり、この道の景観が『薔』『ベテルギウス』『ここにしか咲かない花』『あなたへと続く道』など多くの曲にイメージされています。

黒田：小渕の話を聞いて、どんなとこかな？と想像しています。

小渕：朝は背中に朝日を浴びながら、夕方は背中に夕日を浴びながら真っすぐな影を映して歩いた道です。遊び場、部活のトレーニングなど思い出だらけでモチーフになっている曲がたくさん。どんな町に行っても出会えない場所です。

► フローランテ宮崎



四季折々の花が美しい植物公園で、年間を通してさまざまなイベントが開催されています。メジャーデビュー直前に開催されたライブは、当時の拠点、大阪からファンがマイクロバスで駆け付けたこと、黒田さんが小渕さんの大阪での活動を思い涙したことなどから伝説とされています。

黒田：ライブのあと、楽屋にテンガロンハットをかぶったパンチのあるおじさんが入ってきたのですが、小渕のおじさんでした。

小渕：父や母の民謡の師匠でもあった、すごい人なんです。